Reborn

Vol.5 2017秋号

Take Free
ご自由に
お持ちください

【特集】地域とつながろう

社会医療法人ましき会
益城病院
MASHIKI HOSPITAL

Contents

巻頭言 …… 1
【特集】地域とつながろう　益城病院の取り組み …… 2
PLAN2020 Bチーム・職場インフォメーション …… 6
【特集】地域とつながろう 鎌田實氏講演会「生きているってすばらしい」 …… 7
犬飼記念美術館9月企画展“益城町にアートがやってきた” …… 10
研修・院内勉強会 …… 12
リレーコラムOff Time・院内情報 …… 13

益城病院 基本理念

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し
最善のプロフェッショナルサービスを提供し、
精神科医療の責任ある担い手として、地域の医療・福祉・文化に貢献します。

五つの誓い

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、
社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、
心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、
地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。

患者さんの権利と義務

1. すべての個人情報は守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます。
5. いかなる場合も人格的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

祭りごころと、ご近所づきあい

理事長　犬飼 邦明

もうずいぶん前の話になりますが、当院で祭りをやろうということになり、できれば地域の皆様にも参加していただくための目玉を考えたことがあります。今でも思い出すのは、神輿（みこし）や法被（はっぴ）を手作りし、かけ声あげて病院周囲を練り歩いたことです。「幽霊屋敷」は受けました。地域の子どもさん達にも参加を呼びかけましたが、喜んだのは患者さん達でした。

益城町の夏祭りでは、廃品や地産の農作物を用いての作り物コンテストに参加し、毎回金賞を受賞していました。数ヵ月前から仕事そっちのけで準備に入るものですから、企画から製作まで活躍するのは決まってT君達でした。参加型祭りの代表は「阿波踊り」ですが、今年初めて徳島で保存会の踊りを見て、あの踊る仕草のもつ意味が理解できました。

ステージに立って芸を披露するのも一つですし、模擬店に出店するのも楽しい。企画の段階からどうやってお客さんを呼び込むかが腕の見せどころです。中でも子どもさんをいかに引きつけるかがポイントでした。ミニカーがはやった時にはレースコースを作って競争させたり、子どもさんがわくわくするような福引き景品を準備し、子どもが動けば親も動く…いつの間にか夏の風物詩として定着していきました。

熊本地震からちょうど1年経った今年4月15日、白い目で見られるのを承知で「復興祈年祭」をやりました。どういうわけか当院の祭りは天候に恵まれず、今回も朝から雨で、大わらわで会場を移しました。山本恭二さんライブ、くまモンの飛び入り参加もあり盛況でした。日常の中に祭りごころが取り戻せたら、少しゆとりが出てきたしるしなのかもしれません。

特　集

地域とつながろう

地域と一つに“手と手をつなごう”

当院には、初代院長の思いから始まった、精神科の垣根を低くしようという職場風土があり、さまざまな地域貢献は形を変えながら現在も続いています。また、警察・民生委員・老人会などを対象とした研修会、保健所や町村職員も交えた家族会など、地域の方々とのふれあいを大切にした取り組みも好評です。美術館での地域交流は、かつてなかった「文化のふれあい」で裾野を広くしました。熊本地震は災禍と苛酷な未来を残しましたが、全国からの思ってもみない大きなご支援、温かい励ましがあり、地域がもっと広域的なものに繋がりました。このご縁を大事にして、私たち職員は羽ばたいていきたい。そんな思いを込め、「地域とのつながり」をテーマに、病院のさまざまな取り組みを特集としてご紹介いたします。

（理事 田中洋子）

地域の中で、患者さんと家族をサポート

訪問看護ステーション 管理者　豊永　宜子

当院を利用している方を中心に、主に上益城郡、熊本市東区エリアを訪問しています。訪問看護を知っていただける機会も増え、2014年の開設時には月に約230件だった訪問件数は、約280件まで増えました。

私たちは、その人らしい暮らしができるように、服薬・保清指導、生活リズムの調整、治療継続の支援、家族の病気理解への援助など、さまざまなケアを行っています。

訪問看護を利用することで、症状の変化により早く気づき、症状の悪化を予防する事ができると考えています。

認知症初期集中支援チームの役割

高齢福祉サービス科 科長 堀 光代

2017年4月、益城町より『認知症初期集中支援推進事業』の委託を受け、当院では「認知症初期集中支援チーム」を設置しました。この支援チームの役割は、認知症の人やその疑いのある人及びご家族を訪問し、診断・対応に向けて、初期支援を集中的に行うものです。支援対象者は、在宅で生活している40歳以上の認知症の人、または認知症が疑われる人で、

① 医療サービス・介護サービスを受けていない人、または中断している人等

② 医療サービス・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している人等です。

相談窓口となる東部・西部圏域包括支援センター（こころねっと）から、チームに訪問依頼が来ます。私達は相談者の家を訪問し、必要なサービスに結びつけるための活動を行います。活動内容について月1回のチーム員会議で検討を行い、おおむね3ヵ月以内に支援を完了します。まだ始まったばかりで訪問件数は少なく手探りで頑張っていますが、このような活動を通してチーム員も積極的に地域に出かけ、認知症の方が、安心して住み慣れた地域、住み慣れた場所で暮らせるお手伝いをしていきます。

当院の認知症初期集中支援チームのサポート医とチーム員

専門医療で地域を支える、へき地診療

診療支援科 科長 古閑 博隆

当院のへき地診療は、2010年から上益城郡山都町内にて取り組みを始めました。2011年の診療実績は166件であり、一日平均2.7人と決して多くはありませんでした。診療を重ねる傍ら、健康講座を開催するなど普及・啓発活動にも取り組み、翌年度以降は徐々に受診者数も増加。また、2014年からは上天草市の湯島へき地診療所での診療も始まり、診療活動エリアも広がりました。2016年の診療実績は山都町406件、湯島48件。2011年から比べると一日平均は約3.5倍になりました。受診者は70代以上が約8割を占め、疾患は主に認知症です。他にも、精神科病院へ通院を続けていたが通院手段の確保が難しい、との理由で転医して来られる方もあります。

今後も、精神科としての専門的な治療をへき地においても提供し、社会医療法人として、公益性の高い医療を担っていきたいと思います。

⬆山都町北部へき地診療所
⬈湯島港では湯島猫神像がお出迎え
➡湯島連絡船から湯島を望む

栄養士の熱意が生んだ「非常食提供マニュアル」

栄養管理科 科長 井上 さとみ

この数年、大規模災害が起こるたびに、多くの患者の食事を担う病院栄養士たちは大きな不安を抱えていました。病院単独では賄いきれないため、地域や他の病院と連携を取り支援し合う共助のシステムを構築する必要があると考え、熊本県精神科協会（以下、熊精協）栄養部で「災害ワーキンググチーム」を立ち上げ活動を開始しました。発足から3年後、事務長会や院長会の承認を得て、熊精協「災害時における非常食提供マニュアル」が完成。それは奇しくも、熊本地震の前震が発生した昨年4月14日のことでした。被災後、食事の提供を受けた方から、「手作りの梅干しの入ったおにぎりの味は忘れない」そんな声を聞きました。嬉しいと同時に、日頃の備えと連携の大切さを痛感させられました。

今年の10月12～13日、広島市で行われた第6回日本精神科医学会学術大会で「非常時における非常食提供マニュアル」についての今までの取り組みを発表し、「学会長賞」を受賞しました。熊本だけでなく、全国的なマニュアルになるとの評価が受賞につながったのです。各病院によって悩みや問題が違い、完成までには多くの時間を要しましたが、私たちすべての栄養士には、「いかなる時も患者さんに食事を提供したい」という熱い想いがありました。その熱意を、今後も守り続けていきたいと思います。

↗第6回日本精神科医学会表彰式で日精協山崎學会長と記念撮影
⬆非常食提供マニュアルに沿って近隣精神科病院と合同訓練の様子（今年4月25日）
➡合同訓練後に訓練の振り返り、意見交換の会議を行う

西原村仮設サロンでの支援活動

診療支援科作業療法室 主任 前田 真有美

熊本地震後、西原村社会福祉協議会より、仮設住宅内のサロン活動を作業療法士に支援してほしいとの依頼があり、昨年10月から作業療法スタッフ7名が交代でボランティア活動に伺っています。仮設住宅の方々を対象に、出かける機会、人とふれ合う機会を増やすことを目的として、準備体操、創作活動を実施。月4回の頻度で、1回につき訪問時間は2時間、作業療法スタッフ2名で平均8～10名に関わっており、2016年10月～2017年7月までに325名の方が参加されています。

創作活動では、月毎に身近な素材を使用し、「ちょっと手を加えたら素敵な物ができた」「役に立った」と言っていただける作品を紹介しています。なるべく自分の手で作ってもらうことを心がけ、物への愛着が芽生えること、他者との自然な交流ができること、そして、出来た物を持ち帰れることが醍醐味です。地域貢献の一助として、「またサロンに行ってみようか」と思える時間を提供していきたいと思います。

在宅医療の現場より、看取りについて考える

看護部長 水田 由紀 （講師：熊本ケアホームクリニック 井田 栄一院長）

2017年9月1日、熊本ホームケアクリニックの院長、井田栄一先生をお迎えして、医療サービス情報を適切に提供するための職員勉強会を開催しました。高齢化に伴い、終末期を病棟で看取る患者さんが少しずつ増えてきており、精神科に勤務する私たちならではの患者支援を学ぶ目的でお願いした勉強会でした。1時間という限られた時間の中で、熊本における緩和ケアの現状や資源の紹介、先生ご自身の活動報告など、多くの医療情報を提供していただきました。

人生の最期を迎えようとする時、患者さんが何処で、誰と、どの様に過ごしたいかを傾聴し、最善の医療や看護の提供のために、ご本人やご家族と本音で話し合うことが必要であることを、あらためて考えさせられました。「自分たちだけで頑張るのではなく、多くの資源を活用していきましょう」と言われた気がして、優さと元気を頂いた時間でもありました。

講師の井田栄一先生

PLAN2020　Bチーム

在宅支援のあり方検討グループの取り組み

在宅支援部　副部長　増田　なみ子

私たちのグループでは、当院や法人関連施設の職員が集まり、精神科・高齢者・自立支援チームに分かれて意見を出し合いながら、当院にある医療・介護・障害福祉・地域などの包括ケアのあり方を検討してきました。その結果を受け、当院の施設を利用しながら安定した在宅生活を継続するため、現在不足しているサービスや新たなサービスの必要性について論議しながら取り組んでいます。

精神科支援は、宿泊型自立訓練事業所コスモを活用した自立訓練や、精神科デイケアの機能別プログラムの見直しなどです。高齢者支援は、高齢者（精神・認知症）のための有料老人ホームの設立や、認知症デイケアの症状別プログラムへの移行です。自立支援は、就労支援事業所B型（健味健食園）に利用者が来やすい職場環境づくりを図りながら、工賃アップを目指すことにしました。これから、他部署の職員と連携しながら目標達成に向けて取り組んで行きます。

職場インフォメーション

第2回　在宅支援部 居宅介護支援センター

職種や制度の枠を超えて、一人ひとりの在宅生活を支える

介護支援専門員　福島 ひろみ

当院居宅介護支援センターが開設して4年、当院の外来患者さんの介護保険の相談窓口として、また入院患者さんを医療から在宅へ繋ぐ調整役として、多職種や各サービス事業所、行政と連携を図りながら、利用者の在宅生活を支えています。

昨年の熊本地震では、被災され他県への転居や施設への入所を余儀なくされた利用者も多く、辛い別れも経験しましたが、新しいケアマネジャーの仲間が加わり、気持ちを新たに二人三脚で頑張っています。

現在、登録者も約70名となり、地域包括支援センターや地域住民の方からの相談も増えています。相談内容のほとんどが、認知症高齢者や精神疾患のある利用者の在宅介護に関するものですが、当院の認知症デイケアや精神科デイケア、特養「花へんろ」のデイサービスやショートステイは、私達にとって大変心強い存在で、登録者の半数以上のサービス提供をお願いしています。

困難事例として、若年性認知症や知的障害、身体障害を抱えた利用者のケースがありますが、介護サービスのみにとどまらず制度を超えた支援が必要となるため、多種多様な支援内容を模索しながら、同時にそれぞれの専門職との関係づくりを大切にしたいと思っております。

これからも、一人でも多くの方の「その人らしさ」や「笑顔」が見られることを願いながら支援を続けていきます。

鎌田 實氏 講演会

「生きているってすばらしい」

～人間と人間の関係と心の復興が大切～

鎌田 實（かまた みのる）　PROFILE

1948年、東京生まれ。東京医科歯科大学医学部卒業後、長野県・諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり、潰れかけていた病院を再生。「健康づくり運動」を実践し、長野県を長寿日本一に導く。一方、1991年より約25年間、ベラルーシ共和国の放射能汚染地帯へ100回以上にわたって医師団を派遣し、約14億円の医薬品を支援（JCF）。2004年からはイラクの4つの小児病院へ10年間で4億円の薬を送るなど支援を行う（JIM-NET）。東北の被災者支援にもいち早く取り組んでいる。「がんばらない」「1%の力」（河出書房新書）他、著書多数。

9月23日、熊本県精神科病院協同組合・大王製紙株式会社の主催により、
益城町文化会館で二部構成の講演会が開かれました。
第一部は、当院理事長 犬飼邦明が「日常性を取り戻す」と題し講演を行いました。
日常性の中にさまざまな事象があり、それが心理的にどのような影響を与えるのか、
そして、地震からの復旧・復興の途上で、日常性を取り戻すことの大切さについて
あらためて気づくことができたのではないかと思います。
第二部の鎌田先生は、40年間、医師として地域医療に携わってこられた実体験をもとに、
スイスのバーゼル大学が発表した“世話好きな人は長生きする”という新事実や
感動したり美味しいと感じることで幸せホルモンが分泌されるという事例などを交え、
「どんな困難に出遭っても、生きている限り人は変わる可能性を持っている」と語られました。
医師ならではの科学的な視点とユーモアに、すべての聴衆が引き込まれた1時間半。
ほんの少し行動を変えるだけで幸せになれる生き方のコツと、人のつながりの大切さを、
鎌田先生は、熊本の被災者に寄り添う温かいまなざしとともに伝えて下さいました。

心に残った、鎌田 實先生の言葉

臨床心理室 主任　小松 哉子

講演会のために益城町に来られた鎌田 實先生と、貴重なお時間を共有できる幸運な機会を得た。講演前の約30分間、先生と交わした忘れがたい会話をふり返ってみたい。

先生の不思議な髪型とほっこりお顔、程よく響く声にストレートな言葉、よどみのない話し方、目にはキラリと力があり、室内には心地の良い緊張感が漂い、満たされた気分となった。

「益城で出会った81才のおじいさんに、今年の稲はどう？と尋ねると『うつくしかぁ』って。丹精込めて作っているんだよね、その言葉にジーンときたんだ」。昨年、ラジオ番組【鎌田實×村上信夫　日曜はがんばらない】で紹介されていたそのエピソードを聴いて、涙が溢れ止まらなかった。今回お会いする機会を得て、そのことにまず触れてみた。すると、「午前中、そのおじいさんに会ってきたんだよ。去年、家は全壊、また造ればいいと言ってたけど、先日棟上げが終わったって。かっこいいよね。来年は新築の家に一升瓶を持って、手料理をご馳走になるよ」と、満面の笑みで語られた。何気なく、“来年もこの益城に来るよ！”と言って下さっているように思えた。嬉しかった。

地震の傷跡が残る現地に先生は足を踏み入れ、何気ない声掛け、「うつくしかぁ」の一言が心に響き渡り、二人は特別な存在へ。そして見守り続け、約束を守り、出会いを必然に変え動き出す。その動きは社会に発信され、聴く人・読む人の今、さらに過去の出来事までもたぐり寄せながら、じんわりと胸に届き、人々が動き出す。厚かましいとは思ったが、その心通わす出会いや交流は、先生のどこから生まれてくるのか、その疑問を尋ねずにはいられなかった。

先生はご自分の生い立ちに触れ、「絶望と希望は紙一重、人のおかげで育ってきた、人の家に上がり込んで食事を一緒に頂くことが得意になったんだ」と、さらりと語られる。また、「人と人のかかわりが大切、事象を捉える数も大事

⬆鎌田先生との和やかな対談を終えて
⬅第一部の講演を行う犬飼理事長

➡著書『がんばらない健康法』にも登場する鎌田流がんばらないスクワットを会場全員で実践

だけど、数が示す息づく個人の存在、その人との出会いが何よりも大事、そこにはその人の生き様があり、物語がある」と。そして、「熊本は明るい、熱いエネルギーがある」、いろいろな被災地を歩いて来られた先生の感覚、言葉だから、そうなのかなぁ・・そうかもしれないと信じたくなった。

著書『遊行を生きる：悩み、迷う自分を劇的に変える124の言葉』には、自分にあった言葉をまず探しだし、それを心の中で大切に持ち続け、熟成させていくこと、その言葉がいつか人生を変えていくことを、「発熱する言葉」と称して書かれている。

最後に、先生が今、大切にされている言葉を尋ねてみた。少しの間があり「より自由に」との言葉が返ってきた。「これは自分のことだよ、権力から自由なのか、時代の流れから、思い込みや偏見から、お前は、ちゃんと自由に生きているのかと問いかけている」と語られた。まるで原点回帰のように、自分と対話を続けるお姿に見えた。今、ここにいる自分と向き合い、諦めることなく、まだまだ自分の可能性を信じ生き抜く覚悟を感じた。

人間の力を信じて疑わない先生だからこそ、人のために動く、誰かの役に立つことが、自他共に活かし合う生き方であることを、あらゆる方向から熱く語っていただいた。

⬇著書のサイン会には長蛇の列が

⬇講演会場の益城文化会館は熱気に包まれた

犬飼記念美術館

こころと心のミュージアム

最終日アーティストトークショーでの記念撮影

トークショー進行を務める原田真紀氏

本展の企画とコーディネートを務めた宮本初音医師

「Dog Head」
しまうちみか

「minimum box」
稲恒 佳奈

「pattern3」
佐野 直

「いつかあるいはどこかのそら」
園田 昴史

犬飼記念美術館
9月展示

熊本ゆかりの4人のアーティストの作品を一堂に紹介！

「益城町にアートがやってきた」

ART BASE 88・医師 宮本 初音

犬飼記念美術館では、9月5日から24日まで、佐野 直さん（アクリル画）、稲恒佳奈さん（日本画）、しまうちみかさん（彫刻）、園田昴史さん（影像）と、さまざまな表現方法をとる4人の現代アートの作品展が開催されました。私も熱い想いでコーディネートに携わり、この熊本から世界に羽ばたくアーティストの存在を発信することができました。

最終日のアーティストらによるトークショーには40名以上の来場者があり、和やかな雰囲気のもと、質疑や意見交換が活発に行われました。若い作家のエネルギーに溢れた作品を鑑賞できた今回の企画展。「現代美術は難しい！？といった先入観が払拭された」と言う声も聞かれ、初めての現代アートの取り組みに手応えを感じた一ヵ月でした。

アーティスト紹介

佐野 直
繊細な画面の絵画作品で急速にファンを増やしている。

しまうちみか
動物をモチーフにした彫刻作品、若手実力派として注目されている。

稲恒 佳奈
日常の細かな感情や心を浮き彫りにした、独特の表現による日本画が注目されている。

園田 昴史
広島、対馬、釜山等で映像アート作品を中心に活発に活動中。

アーティストによる作品説明

熊本県伝統工芸館課長 坂本尚文氏による開会挨拶

トークショーゲストの熊本市現代美術館主任学芸員 坂本顕子氏（左）と合同会社グランドゥ代表 黒田恵子氏（右）

研修と院内勉強会

院　内		
7月	10日	大塚製薬web講演会（医局）
	12日	平成29年度第1回医療安全・院内感染対策職員研修会
8月	3,10日	救急車用ストレッチャー取り扱い講習会
	31日	在宅支援部伝達講習会（コメディカル部会）
9月	8日	大塚製薬疾患勉強会（統合失調症）・大塚製薬疾患勉強会（てんかん）
	28日	虐待防止法勉強会（熊本県障がい者支援課）
院　外		
7月	1日	日精協認知行動療法（高橋富陽）
	1日	日精看支部研修会（蓑田みすず、阪本浩資、徳永祐子）
	5日	第52回熊精協コメディカル部会研修会・総会（13名）
	5日	被災者支援のスキルを学ぶサイコロジカル･ファーストエイド研修（小松哉子、豊田佳代子、鳥居麻里）
	6日	熊精協栄養部会研修会（井上さとみ）
	8日	浅香山病院職員研修・見学（犬飼邦明、水田由紀、福島郁雄）
	8日	九州てんかん学会（宮﨑知博）
	9日	エキスパートセミナーin九州～アルコール依存症におけるハームリダクション研修会（松永哲夫）
	10日	平成29年度地域精神保健福祉医療担当者研修会（永野健太郎、小松慎吾）
	12日	浜松睡眠セミナー【講演：犬飼邦明】
	13日	福精協看護部長会研修（水田由紀）
	13～14日	日精協主催平成29年度認知症に関する看護研修会（金子元子、梅田亮一）
	18～20日	平成29年度第1回アルコール依存症臨床医等研修（渡邊鮎子）
	19日	准看協「精神症状に対応した摂食嚥下機能への支援」研修会（小田泰徳）
	20～22日	医療安全管理者養成研修会（松永哲夫）（他8月31日～9月1日）
	22日	第24回そよう病院院内学会特別講演【講演：吉村裕子】
	22日	第96回熊本精神神経学会（犬飼邦明、宮﨑知博、鮫島峰子、西尾啓）
	28日	上益城郡医師会【講演：犬飼邦明】
	29日	第21回上益城郡地域医療を考える会（松永哲夫他5名）
	29日	ヤンセンメディカルマネージメントセミナー（犬飼邦明）
	31～8/4	熊本県認知症介護実践リーダー研修（兼瀬舞）（他8月8,22～25日・9月27日）
8月	2,7,22日	ケアマネージャー更新研修（福本英子）（他9月1,4,11,19,25日）
	7日	上益城郡学校給食調理職員研修会（井上さとみ、田中美奈）
	19日	熊本県精神保健福祉士協会第3回新人研修会（北里成美、森田瑞希、岩谷優、髙橋小百合）
	22日	ファシリテーター養成研修（金子真弓、吉田良子）
	27日	上益城郡医師会災害医療実務研修会（犬飼邦明、松永哲夫、渡邊信夫、宮﨑知博）
	28～29日	熊本県相談支援従事者初任者研修（小嶺連央、高野聖子、小松慎吾、東祐介）
	29日	職場のメンタルヘルス研修会（宮﨑翔、村添清美）
	29日	わかりやすいBCP～事業継続マネジメント入門セミナー（佐伯貴志）
	29～30日	日看協「院内研修を効果的・効率的に設計改善する為の方法」（山田加代）
	31日	精神科救急情報センター相談員研修（東祐介）・救急情報センター研修会（犬飼邦明）
9月	2～3日	第14回病院広報実務者研修会（宮﨑翔）
	5日	熊精協看護部会精神科看護基礎講習会（水田由紀、吉田浩二、原田忠行、野口結花、北村紀美子）
	9～10日	グループホーム全国大会（坂田京子、兼瀬舞）
	11日	精神発達障害者しごとサポーター養成講座研修会（永野健太郎）
	13～14日	日精協認知症に関する看護研修会（金子元子、梅田亮一）
	16日	日精看県支部支部研修会看護研究論文発表会（福溝小百合）
	21日	平成29年度災害時こころのケア研修会（伊津野智士、石塚久子）
	22日	熊本地震復興支援企画【講演：犬飼邦明】／益城町文化会館
	22～24日	第51回日本作業療法学会（前田真有美）
	22,24～27,29日	九州看護福祉大学主催「退院支援・退院調整」研修（米村孝史）
	23日	「ブレイン・ファンクション・イメージング・カンファレンス」研修会（宮﨑知博）
	28日	社協認知症サポーター養成講座（堀光代）
	29日	県央相談支援事業所連絡協議会研修会（金子真弓、吉田良子）

※他にも院内外でさまざまな研修・勉強会等に参加しています。

リレーコラム No.2 充実！Off Time

南国気分！

橘病棟看護師　米村 孝史

若い頃から、南国へ旅行に行く事が多く、現地ですぐに目に入るのがハイビスカスです。真っ赤なハイビスカスは、沖縄で「赤花」とも呼ばれています。その花に魅了され、自宅でも一年中、南国気分になれるよう、6年前から育て始めました。園芸初心者でも育てやすく、毎年ぐんぐん育ち、次々と花が咲きます。朝から大きく色鮮やかな花に出会うことが心の癒しとなり、年々数も増えました。今では、赤・ピンク・黄色・オレンジ等の花が咲き、2段に花が咲くフラミンゴもあります。現在はいろいろな品種や色があり、毎年6月頃から園芸店で販売されます。みなさんも一緒にカラフルなハイビスカスを育ててみませんか？

職員往来

2017年7月1日~2017年10月1日

採　用　よろしくお願いします。

❶ 趣味・特技　❷ 入職動機　❸ ひとこと

ナガタ サオリ
永田 沙織
2017年9月19日
外来
看護師

❶ 子どもと遊ぶこと
❷ 一度退職しましたが、スタッフが暖かく、居心地の良さが好きで戻ってきました。
❸ また益城病院でがんばります！

ホンダ キョウコ
本田 恭子
2017年10月1日
医療連携･相談室
精神保健福祉士

❶ ヨガ・ピラティス・茶道など
❷ 入院治療だけでなく、在宅支援にも力を入れているところが、魅力的でした。
❸ 精神科病院の勤務は初めてですので、いろいろなことを学び、吸収して行きたいです。

退　職　お疲れ様でした。

鍬野尚美	2017/7/15	調理師
藤本一輝	2017/7/20	介護福祉士
梶山美香	2017/7/31	看護師
出﨑　遥	2017/8/17	調理師

研修医　お世話になりました。

大久保美穂	2017/7/31~2017/8/25	済生会熊本病院
髙村　柊	2017/9/4~2017/9/29	済生会熊本病院

2017年7月～9月　病院等行事

7月	1～31日	接遇推進月間（挨拶・言葉使い・態度・身だしなみ・人権の尊重）
	2日～30日	「夏のたより～7月展～」／犬飼記念美術館
	3日	益城病院全体会
	5日	みんなで取り組む院内清掃活動
	24日～8/31	「ましき塾」開講
	28日	グループホーム「ふるさと」夜間想定避難訓練
8月	1～27日	「季節のかたち～熊本県立第二高等学校美術科生徒作品展」／犬飼記念美術館
	30日	みんなで取り組む院内清掃活動
9月	5～24日	「益城町にアートがやってきた～熊本ゆかりのアーティスト作品展」／犬飼記念美術館
	23日	グループホーム「ふるさと」地震避難訓練
	24日	犬飼記念美術館9月展「アーティストトーク」
	26日～10/2	「下川グループ裂き織りと小物展」／犬飼記念美術館

実習生受け入れ実績

7月	該当なし
8月	栄養士実習／平岡栄養士専門学校（1名）
	栄養士実習／尚絅大学短期大学部（1名）
	病院PSW実習／熊本社会福祉専門学校（3名）
	施設PSW実習／熊本学園大学（2名）
9月	病院PSW実習／熊本学園大学（2名）
	施設PSW実習／九州ルーテル学院大学（1名）
	健味健食園職場体験／益城中学校（4名）

診療実績

単位：人

区分		7月	8月	9月
外来	外来患者延人数	3,064	3,200	2,916
	（うち新規患者人数）	69	63	37
	平均外来患者人数	145.9	139.1	132.5
入院	新入院患者人数	32	29	36
	退院患者人数	39	31	31
	在院患者延人数	6,256	6,341	6,203
	平均入院患者人数	201.8	204.5	206.8
	平均在院日数（単位：日）	176.2	211.4	185.2

ピア・レビュー委員会による早朝あいさつ運動

編集後記

東北から届いたど根性ひまわりの花が終わり、曼珠沙華やコスモスなど色とりどりの秋の花が私たちを和ませてくれます。そのような秋の益城町で空き家の公費解体が9割方終わり過疎のような町並みもあります。災害公営住宅は680戸必要と町の検討委員会が提言しています。復興を目標に私たち職員も地域の方々と共に歩んで行きます。
鎌田實医師の「1％の力」こだわりの医療…よい巡り会いに感謝の秋です。

（田中洋子）

MASHIKI HOSPITAL

社会医療法人ましき会

益城病院

精神科・心療内科・小児科・歯科

〒861-2233
熊本県上益城郡益城町惣領1530

096-286-3611

外来お電話受付時間（月曜～金曜）
午前 9:00～12:00　午後 13:30～17:00

付属施設

- 熊本県認知症疾患医療センター
- 高齢者グループホーム「ふるさと」
- 地域活動支援センター「アントニオ」
- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援センター
- 就労継続支援B型事業所「健味健食園」
  パン工房まりも・農園グリーンサム
  軽作業 あひるのしっぽ
- 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
- 育児室「あんふぁん」
- 犬飼記念美術館

関連施設

- ひろやすクリニック　内科・消化器科・循環器科
  熊本県上益城郡益城町惣領1544番地3
  TEL 096-286-3636
- 特別養護老人ホーム 花へんろ
  熊本県上益城郡益城町惣領1670
  TEL 096-287-8706
- 養護老人ホームAKAI花へんろ
  熊本県上益城郡益城町赤井1800
  TEL 096-286-2075

益城病院　検索

表紙タイトル：Reborn（リボーン）新しく生まれ変わること。　表紙写真：俵山コスモス園とデイケアメンバーの皆さん
撮　影：岡野俊博　編　集：堀地久美子　発　行：益城病院広報委員会　発行日：2017年10月25日